



おいしい米づくり情報

2026/03/09

第1号 種子予措編

庄内総合支庁 農業技術普及課

Tel. 0235-64-2103

健苗育成は高品質・良食味・安定生産の第一歩！

- ・老化苗防止に向けた**適正育苗期間**の確保
- ・適切な浸種水温と適切な催芽時間・温度で催芽の揃いを確保
- ・**ばか苗病対策**の徹底

☑ 移植日から逆算して作業計画を立てましょう

高品質・良食味生産のための移植適期は 5月10日頃です。移植が遅くなると初期生育の確保が難しくなり、収量が低下する場合があります。移植日から逆算して育苗の計画を立てましょう。

※移植日から逆算した育苗計画の一例（稚苗 2.5 葉苗の場合）



☑ 薬剤消毒時は使用方法を確認

- 1 薬剤の種類で対象病害虫や処理方法が異なります。希釈倍率や処理時間等を必ず確認しましょう。
- 2 薬液の温度が低すぎると効果が低下するので、処理時の水温は10℃以上を確保しましょう。
- 3 薬液に浸漬したら必ず籾袋をゆすり、**薬液を籾袋の内**
部まで十分浸透させましょう。

※薬剤消毒の一例

使用薬剤	テクリードCフロアブル
処理時間	24時間
希釈倍率	200倍
種子の量	乾籾10kg
水量・薬剂量	薬剤100ml+水20ℓ

プロクロラズ剤(スポルタック剤)の「ばか苗病」耐性菌が確認されているので、注意しましょう。

☑ 温湯消毒時の留意点

- 1 温湯消毒は、「58℃ 20分」または「60℃ 15分」です。
(ただし、使用する温湯消毒機の説明書に記載ある温度・時間に従ってください。)
- 2 浸種直後、水面上に種子袋を5回ほど上げ下げし、**種子袋の中心部まで温湯を浸透させま**
しょう。また、温湯消毒後はただちに冷却し、そのまま浸種します。

☑ 浸種のポイントは適正水温の確保

- 1 浸種中の適正水温は 10～15℃です。浸種初日の水温が低いと発芽率が低下するおそれがあるので、**浸種初日は必ず水温 10℃以上を確保**しましょう。

品種	積算気温	浸漬日数	
		水温10℃	水温12℃
はえぬき、つや姫、雪若丸 ひとめぼれ、コシヒカリ	120℃	12日間	10日間

- 2 **水温 15℃を超えるとばか苗病が発生しやすくなります。**浸種桶に直射日光が当たらないようにする等、浸種桶の置き場所・置き方には十分注意しましょう。また、浸種桶には必ず温度計を設置し、フタで覆いましょう。

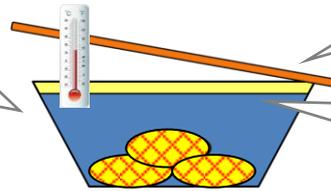
春先は気温が急上昇する日があります。そのような時は水温管理に特に注意しましょう。

3 新鮮な酸素を供給するために必ず水交換を行いましょ。また水交換の際は吸水ムラを防ぐため種子袋の配置を替えましょ。

- ・必ず温度計を設置し、水温確認!
- ・浸種初日は10℃以上
- ・浸種中は10℃~15℃
- ・長期間の浸種は、ばか苗病発生リスク高めるので避ける

薬剤消毒した場合は防除効果を安定させるため、浸種開始3日間は水交換をしない

- ・桶は日陰や屋内に置く
- ・菌の飛び込みを防ぐため浸種桶にはフタをする



- ・水量は乾粃10kgに30ℓ以上
- ・水交換2~3日に1回

☑ 催芽はハト胸状態を確認

種子の催芽は30~32℃のたっぶりの温湯に袋全体を浸し、通常うち品種では20時間程度を目安に、ハト胸状態となったことを確認し引き上げます。催芽途中で芽切れの状況を確認し、芽の伸びすぎにも注意ましょ。

☑ 播種日・播種量を確認

播種日は、移植日から逆算して設定ましょ。播種が早すぎると、移植するまでに苗の老化が進み、活着が劣ることになるので、注意ましょ。播種量は、稚苗では乾粃で箱当たり150~180gを目安に播種ましょ(右表参照)。

苗の苗類	移植時の葉齢	育苗日数	乾粃重(g)	催芽粃重(g)
稚苗	2.2~2.5	20~25	150~180	180~220
中苗	3.2~3.5	30~35	100~130	120~160
高密度播種苗	2.2~2.2	20日程度	220~300	260~360

※「雪若丸」は粒が大きいので、適切な播種粒数とするために播種量を1割程度増やましょ。

~高密度播種の注意点~

高密度播種(乾粃250~300g程度/箱)を行う方が増えていますが、健苗に育てるために、次の点に十分注意ましょ。

- ①葉数2.2枚程度(育苗期間20日程度)で移植できるように、計画的に播種する。
- ②厚播きなので、苗は生育停滞または徒長・老化しやすくなります。ハウス内・トンネル内の高温は徒長・老化を早めるので、温度管理には十分注意。
- ③育苗後半に苗の蒸散量が多くなります。灌水は箱の底まで浸みるようにタップリ(朝1回)。

※育苗日数が長引く場合は…

苗の老化や移植後の生育停滞を防ぐために、移植3日前に箱当たり窒素成分1g程度を追肥。

☑ 基本的なばか苗病対策

重要!!

◎作業環境の衛生管理

- ・催芽機、育苗箱の洗浄・消毒、作業場所や育苗施設周辺の清掃の徹底(種子消毒後の感染防止)。
- ・生粃殻、ワラなどは伝染源になるので育苗資材に使用しない。
- ・粃殻くん炭は、ばか苗病菌を保菌している恐れがあるため、育苗資材には使用しない。

◎適切な種子消毒

- ・薬剤は使用基準(希釈倍率、浸種時間、処理量等)通りに使用する。

◎適切な催芽温度

- ・浸種温度は15℃以上にしない(15℃以上で粃表面での菌の増殖が可能)。



本田での発生状況

やまがた
米づくりナビ



(旧:スマートつや姫)

「食味・収量点検マップ」の点検項目をチェックして課題を明確にしよう!

「食味・収量の向上事例集」3月中旬掲載予定!



まもなく春作業開始! 農業機械事故を防ぎましょ!